

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ダンスⅠ(前期)/(後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	ダンス基礎			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴17年 ダンスチームSWING TOP STARS☆所属 様々なコンテストで優勝、入賞を果たす。2009年より「よみうりランド」にて、ダンスブラッシュライトオンパレード					
授業概要						
ダンスの基礎となる身体の使い方、リズムの取り方、技やステップを学び、柔軟や姿勢の矯正などを行いパフォーマンス能力の向上と、魅せれてしっかりと伝わる表現方法の指導 ダンスヴォーカ						
到達目標						
基礎体力の向上、しなやかで怪我のしにくい身体を作り、どんな楽曲でも「乗れて魅せられる」アーティストになる						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	ストレッチ、筋トレ(腹筋、腕立て、体幹トレーニングなど)、アイソレーション 基本的なリズムトレーニングを中心とした授業					
【前期】 6～10回目	アイソレーション、基本的なリズムトレーニング STEP(バドブレ、クラブ、チャールストンなど)を中心とした授業					
【前期】 11～15回目	アイソレーションの応用、リズムトレーニング、 様々な技の習得(キャベツバッジ、ランニングマン、ロジャーラビットなど)を中心とした授業					
【前期】 16～20回目	前期で習った技やSTEPを組み合わせたコンビネーションを覚えしっかりと踊れるようにし 前期のテストに備えた練習を中心とした授業 20回目 前期試験					
【後期】 21～25回目	前期の復習、技の習得(ニュージャックスウィング、ウォッシングマシーンなど)を中心とした授業					
【後期】 26～30回目	リズムトレーニング応用、技の習得(トゥループ、ドロップ、ゲスなど)を中心とした授業					
【後期】 31～35回目	HOUSEダンスのSTEP(ルーズレッグ、スイッチなど)の習得 細かい身体の使い方を理解し、表現の幅を広げる					
【後期】 36～40回目	1年間で学んだ技やSTEP、身体の使い方を振付の中で表現できるようにすることを中心とした授業 36回目 後期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	最初は出来ない技やSTEPが出てくると思います。諦めずに頑張ってチャレンジしていきましょう。 とにかく基礎がとても重要です。基礎を身につけたうえで色々な動きに挑戦していきましょう					
使用教科書	特になし					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態/必・選	実習 必修	
	ヴォイストレーニングⅠ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経歴21年。様々なステージ、メディア出演を経験、有名アーティストの出演CMで1,000人の歌唱指導を担当。現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。					
授業概要						
楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「Lifestyle、ストレッチ、姿勢、呼吸」ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	「腹式」発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。					
【前期】 9～12回目	「滑舌」言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用して行えるようにする。					
【前期】 13～16回目	「共鳴」音量ではなく「響き」を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。					
【前期】 17～19回目	「高音域①」高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合い(太い、柔らかいなど)をコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	「高音域②」上の「高音域①」を継続					
【後期】 25～28回目	「支え」声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものにする身体の使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。					
【後期】 29～32回目	「トーンコントロール」歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。					
【後期】 33～35回目	「総合①」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。					
【後期】 36回目	後期試験					
【後期】 37～40回目	「総合②」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	歌唱時の基本的な身体の使い方を身に付けることは、何よりも大切。間違った発声法は喉を傷めるだけでなく、聴衆に嫌悪感を感じさせます。そういったものを“個性”と正当化しないことです。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ダンス I-A/B		授業形態/必・選	実習	必修
	ステージパフォーマンス			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	78回(156単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験17年 2009年、ヴォーカルダンスグループでTV局主催オーディションにてグランプリ獲得。 2011年、1stSingleを全国発売。解散後もグループ、コーラス、TV番組仮ヴォーカル・ライブ配信 ライバーやアイドルなど様々なアーティストのヴォイストレーニングも行っている。					
授業概要						
人前で表現する事の心構えや他者との協調性を学ぶ。						
到達目標						
ステージに立つ為の集中力、想像力、表現力、忍耐力の習得						
授業計画・内容						
【前期】 1～16回目	【ヴォーカル・ダンス】課題曲・課題ダンスに取り組み、ステージに立つ・創り上げる基礎を作る。					
【前期】 17～32回目	【ヴォーカル】 グループでの曲練習。パート割、コーラスパート決める。 【ダンス】グループに分かれて振付を考案					
【前期】 33～42回目	【ヴォーカル・ダンス】本番に向けての全体練習。作品に出演する為の他者とのチームワークを学ぶ。 振付・本番の流れを全員で揃えていく。通し稽古を開始。					
【前期】 43回目	「前期試験」					
【後期】 44～58回目	【ヴォーカル・ダンス】初回オーディションを行い、課題曲内での選抜パートを決め、全員で一つのを創り上げる過程で協調性を学ぶ。					
【後期】 59～72回目	【ヴォーカル】グループでの曲選曲。作品の内容に対しどのような楽曲が自分達に作品に適しているかを考え選曲する。パート割をし、主旋律、ハモリなどそれぞれ入れていく。 【ダンス】グループに分かれて振付を考案					
【後期】 73～76回目	【ヴォーカル・ダンス】本番に向けての全体練習。作品に出演する為の他者とのチームワークを学ぶ。 振付・本番の流れを全員で揃えていく。通し稽古を開始。					
【後期】 77回目	「後期試験」					
【後期】 78回目	・通し稽古 本番の出ハケのタイミング・場当たり等を各自把握し、本番に向けて仕上げる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	大人数で授業を行う事で協調性を養いダンス&ヴォーカルで1つの作品を創り上げるうえで必要な事を学びます。					
使用教科書	特になし					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	RAP		授業形態/必・選	実習	必修
	RAP&REC 前期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験19年。仁井山 2005年ユニバーサルミュージックより戦慄のラッパーとしてメジャーデビュー。RAP以外に有名CMのナレーションやイベント司会、舞浜					
授業概要						

歌唱表現の一つであるRAPを身につける。RECの基礎知識を身につける。

到達目標

様々なビートでRAPを歌いこなす。自分でRECが出来るようになる事。

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	簡単なRAPの楽曲を数曲覚えていきましょう。 RAPに慣れる事を含め、リズム感の強化や声を打楽器のように使っていくトレーニングをしましょう。 リズム譜の読み方も同時にレクチャーします。
【前期】 6～10回目	覚えた楽曲をRECしてみましょう。まずは先生が皆さんのRAPをレコーディングします。 自分のRAPを聴いて今の自分の実力を知りどうしたらよりカッコ良いRAPになるのか？ をレクチャーします。 アクセントや言葉の切るタイミング、リズムの崩し方など、様々な技法を習得していきましょう。
【前期】 11～15回目	RECの基礎知識を身につけていきましょう。logicという楽曲制作ソフトを使用して授業を行います。 まずはソフトの立ち上げ方からゆっくりと進めていきます。 同時にオーディオインターフェースやコンデンサーマイクの使い方なども教えていきます
【前期】 16～20回目	1ランク上のRAPに挑戦しましょう。その後、覚えた楽曲を自分たちでRECしてみましょう。 RAP特有のFLOWや韻を知り、歌詞を分析して、どこで韻1を踏んでいるのか？ どの言葉が一番伝えたいのか？そういったことを知ることでRAPだけではなく音楽に対しての見聞を広げていきましょう。 22回目の授業で前期試験を行います。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	RAPを歌った事がないという方も多いと思いますが 歌唱表現の1つなので力まず楽しくやってみましょう。RECも楽しいですよ。
使用教科書	特にありません。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	RAP		授業形態/必・選	実習	必修
	RAP&REC 後期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験19年。仁井山 2005年ユニバーサルミュージックより戦慄のラッパーとしてメジャーデビュー。RAP以外に有名CMのナレーションやイベント司会、舞浜					
授業概要						

歌唱表現の一つであるRAPを身につける。RECの基礎知識を身につける。

到達目標

様々なビートでRAPを歌いこなす。自分でRECが出来るようになる事。

授業計画・内容	
【後期】 1～5回目	簡単なRAPの楽曲を数曲覚えていきましょう。 RAPに慣れる事を含め、リズム感の強化や声を打楽器のように使っていくトレーニングをしましょう。リズム譜の読み方も同時にレクチャーします。
【後期】 6～10回目	覚えた楽曲をRECしてみましょう。まずは先生が皆さんのRAPをレコーディングします。 自分のRAPを聴いて今の自分の実力を知り どうしたらよりカッコ良いRAPになるのか？ をレクチャーします。 アクセントや言葉を切るタイミング、リズムの崩し方など、様々な技法を習得していきましょう。
【後期】 11～15回目	RECの基礎知識を身につけていきましょう。logicという楽曲制作ソフトを使用して授業を行います。 まずはソフトの立ち上げ方からゆっくりと進めていきます。 同時にオーディオインターフェースやコンデンサーマイクの使い方なども教えていきます。
【後期】 16～20回目	1ランク上のRAPに挑戦しましょう。その後、覚えた楽曲を自分たちでRECしてみましょう。 RAP特有のFLOWや韻を知り、歌詞を分析して、どこで韻1を踏んでいるのか？ どの言葉が一番伝えたいのか？ そういったことを知ることでRAPだけではなく音楽に対しての見聞を広げていきましょう。 40回目の授業で後期試験を行います。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	RAPを歌った事がないという方も多いと思いますが 歌唱表現の1つなので力まず楽しくやってみましょう。RECも楽しいですよ。
使用教科書	特にありません。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	RAP		授業形態/必・選	講義	必修
	理論 前期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験29年。 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。					
授業概要						
音楽の基礎となるべき理論的知識(リズム、拍子、音程、音階、記譜法など)を学び、感覚的な本能だけでは解決に至らない面を理論的に考える能力・正確さ等様々な要素と結び付けていく才能を発達させる。						
到達目標						
読譜の力をつける。 音階・音程を理論的に理解する。 理論的知識を実用的知識に繋ぐ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	音と十二平均律 ・音の種類、音の3要素、倍音 ・純正律と十二平均律 ・小テスト					
【前期】 4～6回目	譜表と音名 ・五線、音部記号 ・幹音名、派生音名、変化記号 ・略記法 ・小テスト					
【前期】 7～9回目	音符と休符、リズムと拍子 ・音、休符の種類と長さ、連符 リズムと拍子 ・拍子記号、拍子の種類 ・小テスト					
【前期】 10～13回目	音程・度数、音程の転回・協和音程と不協和音程・小テスト					
【前期】 14～17回目	音階 ・長音階と短音階 ・その他の音階 ・小テスト					
【前期】 18～19回目	前期のまとめ ・読譜 ・小テスト、応用、実用と実践 ・前期試験対策					
【前期】 20回目	前期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	音楽理論は世界共通であり、楽譜は母国言語が異なっても音楽を伝えることが出来る第二の共通言語です。楽しく実践を交えながら、実技とは違った側面から音楽を学んでいきましょう。					
使用教科書	独自作成したテキストを随時配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	RAP		授業形態/必・選	講義	必修
	理論 後期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験29年。 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。					
授業概要						
音楽の基礎となるべき理論的知識(リズム、拍子、音程、音階、記譜法など)を学び、感覚的な本能だけでは解決に至らない面を理論的に考える能力・正確さ等様々な要素と結び付けていく才能を発達させる。						
到達目標						
読譜の力をつける。 音階・音程を理論的に理解する。 理論的知識を実用的知識に繋ぐ。						
授業計画・内容						
【後期】 1～4回目	和音 ・三和音と七の和音、和音の基本形および転回形 ・音階各音上の三和音・七の和音 ・コード ・小テスト					
【後期】 5～8回目	和音の機能 ・TSDTの機能 ・主要三和音と副三和音 ・コード進行 ・小テスト					
【後期】 9～10回目	速さ・強さに関する表示法 ・数字による表示法、ことばによる表示法 ・速さ・強さを次第に変化させるときの表示法 ・強さを局部的に変えるときの表示法 ・小テスト					
【後期】 11～12回目	曲想・奏法に関する表示法 ・曲想に関する用語、奏法を指示する用語・記号(装飾記号・省略記号を除く) ・装飾音・装飾記号 ・小テスト					
【後期】 13～18回目	後期のまとめ ・小テスト、応用、実用と実践 ・後期試験対策					
【後期】 19回目	後期試験					
【後期】 20回目	次年度に向け各項目を深く掘り下げる ・コードの聴き取りと採譜 ・読譜 ・視唱					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	音楽理論は世界共通であり、楽譜は母国言語が異なっても音楽を伝えることが出来る第二の共通言語です。楽しく実践を交えながら、実技とは違った側面から音楽を学んでいきましょう。					
使用教科書	独自作成したテキストを随時配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルI-A(前期)		授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルI_(前期)			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。					
授業概要						
<p>コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル=ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>						
到達目標						
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>						
授業計画・内容						
	<p>アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</p> <p>課題曲①～④ ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。</p> <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</p>					
【前期】 17～19回目	<p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</p>					
【前期】 20回目 (前期試験)	<p>半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</p>					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	<p>楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう! ※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。 コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人との関わり方や他人への興味を養う。 講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう!</p>					
使用教科書	学校内作成のマスター譜や譜面					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルI-A(後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルI_(後期)			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。					
授業概要						
<p>コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル=ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>						
到達目標						
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>						
授業計画・内容						
【後期】 1～14回目	<p>アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</p> <p>課題曲①～④ ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。</p> <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</p>					
【後期】 15～17回目	<p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</p>					
【後期】 18～20回目 (前期試験)	<p>半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</p>					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	<p>楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう! ※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。 コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人との関わり方や他人への興味を養う。 講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう!</p>					
使用教科書	学校内作成のマスター譜や譜面					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンプルI-A(前期)		授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンプルフォロワー_前期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位	
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	<input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	<p>実務経験17年 2006年にTV番組テーマ曲でメジャーデビュー。国外、国内の多くの有名アーティストと共演。2020年ドラマ挿入歌など多くのタイアップ曲を集めたソロアルバムをリリース。現在は様々な媒体で活動すると共に、自身の経験を活かした育成指導を行っている。</p>					
授業概要						
<p>「アンサンプルI」を受講する歌系の待機学生を対象とし、課題曲をバンドで歌える状態まで仕上げる。 バンドで歌う際に必要な要素やコーラスワークを学ぶ。 楽器系と音を合わせる為の基盤作り及び合奏を想定したスキルアップ。</p>						
到達目標						
<p>バンドで歌う為に必要な事を理解し、最低限の準備が当たり前になるようになる。 迅速に曲を覚えて楽曲毎のポイントを抑え、バンドの中で歌えるようになる。</p>						
授業計画・内容						
【前期】 1～19回目	<p>「アンサンプルI」課題曲①～④の仕込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ・間奏の小節数(アレンジの進捗次第で都度修正)コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー(音程・リズム)の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス(ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ギャなど)を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け(例:1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など)やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 <p>アンサンプルフェスティバルの事前資料作成をフォロー</p>					
【前期】 20回目	<p>半期のまとめ 「前期試験」</p>					
評価方法	<p>学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)</p>					
学生へのメッセージ	<p>「アンサンプルI」授業では歌唱指導をメインに行いません(合わせる事に注力する)ので、課題曲の歌唱における技術的な事は「アンサンプルフォロワー」内で質問や反復練習をし、解決してください。</p>					
使用教科書	<p>無し</p>					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンプルI-A(後期)	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンプルフォロワー_後期		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	<p>実務経験17年 2006年にTV番組テーマ曲でメジャーデビュー。国外、国内の多くの有名アーティストと共演。2020年ドラマ挿入歌など多くのタイアップ曲を集めたソロアルバムをリリース。現在は様々な媒体で活動すると共に、自身の経験を活かした育成指導を行っている。</p>				
授業概要					
<p>「アンサンプルI」を受講する歌系の待機学生を対象とし、課題曲をバンドで歌える状態まで仕上げる。 バンドで歌う際に必要な要素やコーラスワークを学ぶ。 楽器系と音を合わせる為の基盤作り及び合奏を想定したスキルアップ。</p>					
到達目標					
<p>バンドで歌う為に必要な事を理解し、最低限の準備が当たり前になるようになる。 迅速に曲を覚えて楽曲毎のポイントを抑え、バンドの中で歌えるようになる。</p>					
授業計画・内容					
【後期】 1～17回目	<p>「アンサンプルI」課題曲①～④の仕込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ・間奏の小節数(アレンジの進捗次第で都度修正)コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー(音程・リズム)の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス(ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ギャなど)を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け(例:1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など)やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 <p>アンサンプルフェスティバルの事前資料作成をフォロー</p>				
【後期】 18～20回目	<p>半期のまとめ 「前期試験」</p>				
評価方法	<p>学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)</p>				
学生へのメッセージ	<p>「アンサンプルI」授業では歌唱指導をメインに行いません(合わせる事に注力する)ので、課題曲の歌唱における技術的な事は「アンサンプルフォロワー」内で質問や反復練習をし、解決してください。</p>				
使用教科書	<p>無し</p>				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅠ(前期)	授業形態/必・選	実習 必修	
	ヴォーカルⅠ_前期		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験12年 ハリウッド式ボイストレーニングのボイトレメソッドのScientific Vocal Coachや、Estill Voice Training Level1,2、選択理論心理学・コーチングの資格を保持し、科学的根拠に基づいた発声・歌唱指導をしている。現在、アーティスト・声優・アイドル・劇団四季・Vtuber・Youtuber・インフルエンサー等のサポートをしている。				
授業概要					
半年間、入れ替え授業。各自、自由曲を持ってきてもらい、歌唱表現における様々な技術を理解・習得するとともに、感情表現豊かなパフォーマンスを実現していく。歌詞の意味を読み解き、理解して、言葉に適した表現方法を落とし込み、1人1人にあった表現力を身につける。					
到達目標					
自分の体・心・声を一致させて、本来のいい声で歌う。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	初回は歌唱チェックと授業内容説明し、次回以降の課題提出。 ①姿勢・呼吸 ・基礎、土台作り ・地声の安定感を作る				
【前期】 6～9回目	②音作り&リズム ・母音の特性、子音の特性の理解 ・音を整える ・4Beat、8Beat、16Beatのノリ				
【前期】 10～15回目	③共鳴のコントロール ・シンガーズフォルマント・フォルマント同調・クリーントーン ・口の開け方、母音の活用、舌の位置				
【前期】 16～19回目	④様々な声の種類を作る ・ベルティング、ヘビーミックスなどの声作り ・様々な声を曲中に落とし込む ・歌詞の意味を考え、感情と声と歌をリンクさせる				
【前期】 20回目	「前期試験」				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	・曲は自由曲なので、各自で決めて、歌詞をノートに書いてきてください。 ・基本、歌詞は暗譜すること。 ・自分のレッスンを録音し、授業内容をノートに書くこと。				
使用教科書	SLS、Scientific Vocal Coach、Estillを使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅠ(後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルⅠ_後期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験12年 ハリウッド式ボイストレーニングのボイトレメソッドのScientific Vocal Coachや、Estill Voice Training Level1,2、選択理論心理学・コーチングの資格を保持し、科学的根拠に基づいた発声・歌唱指導をしている。現在、アーティスト・声優・アイドル・劇団四季・Vtuber・Youtuber・インフルエンサー等のサポートをしている。					
授業概要						
半年間、入れ替え授業。各自、自由曲を持ってきてもらい、歌唱表現における様々な技術を理解・習得するとともに、感情表現豊かなパフォーマンスを実現していく。歌詞の意味を読み解き、理解して、言葉に適した表現方法を落とし込み、1人1人にあった表現力を身につける。						
到達目標						
自分の体・心・声を一致させて、本来のいい声で歌う。						
授業計画・内容						
【後期】 1～5回目	初回は歌唱チェックと授業内容説明し、次回以降の課題提出。 ①姿勢・呼吸 ・基礎、土台作り ・地声の安定感を作る					
【後期】 6～10回目	②音作り&リズム ・母音の特性、子音の特性の理解 ・音を整える ・4Beat、8Beat、16Beatのノリ					
【後期】 11～16回目	③共鳴のコントロール ・シンガーズフォルマント・フォルマント同調・クリーントーン ・口の開け方、母音の活用、舌の位置					
【後期】 17回目	「後期試験」					
【後期】 18～20回目	④様々な声の種類を作る ・ベルティング、ヘビーミックスなどの声作り ・様々な声を曲中に落とし込む ・歌詞の意味を考え、感情と声と歌をリンクさせる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	・曲は自由曲なので、各自で決めて、歌詞をノートに書いてきてください。 ・基本、歌詞は暗譜すること。 ・自分のレッスンを録音し、授業内容をノートに書くこと。					
使用教科書	SLS、Scientific Vocal Coach、Estillを使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅠ(前期)	授業形態/必・選	実習 必修	
	ヴォーカルⅡ_前期		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験24年。 ハリウッド式ボイストレーニングのボイトレメソッドのScientific Vocal Coachや、Estill Voice Training Level1,2、選択理論心理学・コーチングの資格を保持し、科学的根拠に基づいた発声・歌唱指導をしている。現在、アーティスト・声優・アイドル・劇団四季・Vtuber・Youtuber・インフルエンサー等のサポートをしている。				
授業概要					
半年間、入れ替え授業。各自、自由曲を持ってきてもらい、歌唱表現における様々な技術を理解・習得するとともに、感情表現豊かなパフォーマンスを実現していく。歌詞の意味を読み解き、理解して、言葉に適した表現方法を落とし込み、1人1人にあった表現力を身につける。					
到達目標					
自分の体・心・声を一致させて、本来のいい声で歌う。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	初回は歌唱チェックと授業内容説明し、次回以降の課題提出。 ①姿勢・呼吸 ・基礎、土台作り ・地声の安定感を作る				
【前期】 6～9回目	②音作り&リズム・母音の特性、子音の特性の理解・音を整える・4Beat、8Beat、16Beatのノリ				
【前期】 10～15回目	③共鳴のコントロール ・シンガーズフォルマント・フォルマント同調・クリーントーン ・口の開け方、母音の活用、舌の位置				
【前期】 16～19回目	④様々な声の種類を作る ・ベルティング、ヘビーミックスなどの声作り ・様々な声を曲中に落とし込む ・歌詞の意味を考え、感情と声と歌をリンクさせる				
【前期】 20回目	「前期試験」				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	・曲は自由曲なので、各自で決めて、歌詞をノートに書いてきてください。 ・基本、歌詞は暗譜すること。 ・自分のレッスンを録音し、授業内容をノートに書くこと。				
使用教科書	SLS、Scientific Vocal Coach、Estillを使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅠ(後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカル 後期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位	
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験24年。 ハリウッド式ボイストレーニングのボイトレメソッドのScientific Vocal Coachや、Estill Voice Training Level1,2、選択理論心理学・コーチングの資格を保持し、科学的根拠に基づいた発声・歌唱指導をしている。現在、アーティスト・声優・アイドル・劇団四季・Vtuber・Youtuber・インフルエンサー等のサポートをしている。					
授業概要						
半年間、入れ替え授業。各自、自由曲を持ってきてもらい、歌唱表現における様々な技術を理解・習得するとともに、感情表現豊かなパフォーマンスを実現していく。歌詞の意味を読み解き、理解して、言葉に適した表現方法を落とし込み、1人1人にあった表現力を身につける。						
到達目標						
自分の体・心・声を一致させて、本来のいい声で歌う。						
授業計画・内容						
【後期】 1～5回目	初回は歌唱チェックと授業内容説明し、次回以降の課題提出。 ①姿勢・呼吸 ・基礎、土台作り ・地声の安定感を作る					
【後期】 6～10回目	②音作り&リズム ・母音の特性、子音の特性の理解 ・音を整える ・4Beat, 8Beat, 16Beatのノリ					
【後期】 11～16回目	③共鳴のコントロール ・シンガーズフォルマント・フォルマント同調・クリーントーン ・口の開け方、母音の活用、舌の位置					
【後期】 17回目	「後期試験」					
【後期】 18～20回目	④様々な声の種類を作る ・ベルティング、ヘビーミックスなどの声作り ・様々な声を曲中に落とし込む ・歌詞の意味を考え、感情と声と歌をリンクさせる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	・曲は自由曲なので、各自で決めて、歌詞をノートに書いてきてください。 ・基本、歌詞は暗譜すること。 ・自分のレッスンを録音し、授業内容をノートに書くこと。					
使用教科書	SLS, Scientific Vocal Coach, Estillを使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	表現歌唱(ベーシック)Ⅰ		授業形態/必・選	実習 必修	
	ヴォーカルテクニクⅠ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験22年 '84年バンドデビュー、'94年ソロデビュー、'03年ユニットデビューと並行して、2002年よりボイストレーナーの仕事始める現在もバンド、ユニット、ソロ、の3形態でアーティスト活動中					
授業概要						
歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。						
到達目標						
歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「自由曲中でのアタック、アクセントの習得」 ・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・母音`子音`母音の流れに対する発音との関係 ・オケのリズムアプローチとの関係					
【前期】 5～8回目	「自由曲中でのアップベンド、ダウンベンドの習得」 ・基本的なスケルトレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 9～12回目	「自由曲中でのヴィブラートの習得」 ・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践					
【前期】 13～16回目	「自由曲中でのエッジ、ウイパーヴォイスの習得」 ・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 17～21回目	「自由曲中でのダイナミクス、クレッシェンドの習得」 ・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践					
【前期】 22回目	前期試験					
【後期】 23～26回目	「自由曲中でのファルセットの習得」 ・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え					
【後期】 27～30回目	「自由曲中でのプレスアビール、プレスカットの習得」 ・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践					
【後期】 31～34回目	「自由曲中でのヒーカップ、フォールの習得」 ・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック					
【後期】 35～37回目	「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正					
【後期】 38回目	後期試験					
【後期】 39回目	「総合②」上の「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正の継続					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	伝える歌に必要な“テクニック”というカテゴリーを自分の歌の中で軽視しないこと。特にバラードタイプの曲を歌う時に平坦にならない、グルーブと説得力ある歌にすることを心がけること。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アコースティックギター/キーボードⅠ(前期)	授業形態/必・選	実習	必修
	AG&KEYⅠ_前期		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				
	アコースティックギター		該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当		
	アコースティックギター		キーボード		
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、 サポートギタリスト等で活動している。		実務経験15年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワー クショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 並行して取り組む様々な楽曲を通して、コードパターンや表現を学びつつ、キー ボードに慣れ親しむ。		
授業概要					
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者に向けたアコースティックギターの基本的な扱い方。 リズムに対する重要性、コードに対するバリエーション。 作曲の為のツールとしてのギターの扱い方。		アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 鍵盤演奏に必要なベーシックなスキルを習得する。 音感やリズム感覚を身に付けるトレーニング。 並行して取り組む様々な楽曲を通して、コードパターンや表現を学びつつ、キー ボードに慣れ親しむ。		
到達目標					
	ベーシックなコードワークに対応出来るようになる。 右手のピッキングタッチ、及びリズムのバリエーションを習得する。 カッティング、アルペジオの奏法を習得する。 フィンガーピッキングを習得する。		コードの響きを聞き分け、弾くことができる。 両手を使い楽曲演奏ができ、表情を加えることができる。 キーボードに沢山触れ、慣れ親しむ。		
授業計画・内容					
	アコースティックギター		キーボード		
【前期】 1～6回目	イントロダクション ・演奏時のフォーム(体の角度、左肘の位置など)の確認 ・右手のリズム(ピッキングの角度、挟む強さ)の確認 ・強弱に重点を置いたストローク		イントロダクション ・キーボード楽器全般の基礎知識、音色の違いや特徴を知る ・鍵盤上の音の並び・コードの仕組み確認 ・コードの部類を聞き分ける(Major, Minor)		
【前期】 7～11回目	左手のフォームの基礎 ・コードの移り変わり時の左手の各指の動きをチェック ・各指の独立性、特に薬指と小指の強化 ・セーハコードのコツ(手首の角度など)		スケール、ダイアトニック ・様々なスケール、ダイアトニックコードの理解 ・色々なキーでも弾いてみる ・シンプルなパターンの楽曲にチャレンジ		
【前期】 12～16回目	ステージングの想定・クリックに合わせた演奏 ・ストラップをつけてのパフォーマ		転回、ナンバリング ・転回型を用いながら、共通音を使い、フォーム(ポジション)を工夫し循環コー ドパターンを弾く。 ・コードパターンを通して、関係性を知る、聞き取る練習		
【前期】 17～19回目	ストロークパターンのバリエーション ・8ビートとそのシンコペーション ・16ビートとそのシンコペーション		両手を使ったリズム ・右手と左手の分離、組み合わせの練習		
【前期】 20回目	「前期試験」		「前期試験」		
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	アコースティックギター(なるべく)持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんでやっていきましょう!		キーボードに慣れるように、楽しみながら一歩ずつ習得していきましょう! 隔週授業なので復習や練習も頑張りましょう。		
使用教科書	無し		必要に応じて課題曲の譜面配布		

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アコースティックギター/キーボードⅠ(後期)	授業形態/必・選	実習	必修
	AG&KEYⅠ 後期		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
	アコースティックギター		キーボード		
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、 サポートギタリスト等で活動している。		実務経験15年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワー クショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。		
授業概要					
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者に向けたアコースティックギターの基本的な扱い方。 リズムに対する重要性、コードに対するバリエーション。 作曲の為のツールとしてのギターの扱い方。		アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 鍵盤演奏に必要なベーシックなスキルを習得する。 音感やリズム感覚を身に付けるトレーニング。 並行して取り組む様々な楽曲を通して、コードパターンや表現を学びつつ、キー ボードに慣れ親しむ。		
到達目標					
	ベーシックなコードワークに対応出来るようになる。 右手のピッキングタッチ、及びリズムのバリエーションを習得する。 カッティング、アルペジオの奏法を習得する。 フィンガーピッキングを習得する。		コードの響きを聞き分け、弾くことができる。 両手を使い楽曲演奏ができ、表情を加えることができる。 キーボードに沢山触れ、慣れ親しむ。		

授業計画・内容					
	アコースティックギター		キーボード		
【後期】 1～5回目	個性的なコードフォーム ・セブンス、sus4、add9コードの効果的な使い方 ・ハイポジションでのコードフォーム ・カポタストの効果的な使い方		他の様々なコード ・diminish、half diminishなど4和音の構成		
【後期】 6～10回目	ギター特有のテクニック ・シンプルなアルペジオ演奏 ・シンプルなカッティング演奏 ・ハンマリング、プリング、スライド等取り入れた演奏		タイム感の意識 ・クリックに合わせてシンプルなコードパターンを弾く。		
【後期】 11～16回目	フィンガーピッキング ・3フィンガー4フィンガー、それぞれの使い分け ・アルペジオとベースノートプラス和音のパターン		バックキックパターン ・色々なバックキックパターン(4分、8分、16分、分散和音など)を通してリズムや ニュアンスの表現を身に付ける		
【後期】 17回目	「後期試験」		「後期試験」		
【後期】 18～20回目	オリジナル曲演奏指導 ・リズムバリエーション、キーの再設定 ・イントロ等のフレーズを考えてみる		楽曲演奏、年間のまとめ		
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	アコースティックギター(なるべく)持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんでやっていきましょう!		キーボードに慣れるように、楽しみながら一歩ずつ習得していきましょう! 隔週授業なので復習や練習も頑張りましょう。		
使用教科書	無し		必要に応じて課題曲の譜面配布		

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	業界基礎知識	授業形態/必・選	講義	必修
	ヴォーカリスト基礎知識		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコースコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験17年 2009年、ヴォーカルダンスグループでTV局主催オーディションにてグランプリ獲得。 2011年、1stSingleを全国発売。解散後もグループ、コーラス、TV番組仮ヴォーカル・ライブ配信 ライバーやアイドルなど様々なアーティストのヴォイストレーニングも行っている。				
授業概要					
ヴォーカリストとして必要最低限の知識、用語、マナーを講義形式で行う。 LIVEやレコーディングの現場、授業内などで学ぶべき事を身に付けます。					
到達目標					
芸能、音楽業界での常識等、実際の現場での対応力を身に付ける。 音楽活動を始めるうえで必要な業界の方とのやり取りを円滑にする知識をつける。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	スタジオ内で使用している機材、音楽(ステージ・REC等)用語の説明 オーディションを受けるうえでの注意事項、ヴォーカリストとして必要な宣材(プロフィール写真等)を作成する。				
【前期】 6～9回目	ヴォーカリストとして喉ケアや話し方について・知っておくべき声帯の病気など ヴォーカリストとしての生活習慣を身に付ける。				
【前期】 10～14回目	・オーディション対策 SNSを使用する際にヴォーカリストとして気を付けること。 権利や情報の管理について学ぶ。				
【前期】 15～19回目	・LIVE対策 セット図・セットリスト・照明案等LIVEする際に必要な事を学ぶ。 実際のイベントで使用するものを作成してみる。				
【前期】 20回目	「前期試験」				
【後期】 21～24回目	声帯のしくみ・腹式呼吸の身体のしくみ 共鳴腔・声区について・母音の口の開け方の違いについて				
【後期】 25～28回目	・あいうえお作詞 作詞で実際に使用されている表現技法の分析 簡単なコード進行・メロディに作詞をし1コーラスを完成。				
【後期】 29～32回目	・データ送受信を学ぶ。 スマホ・PCを使用し、オンラインでのデータの送受信、ガレージバンドでの簡単な編集(LIVE用音源等)				
【後期】 33～36回目	・イヤトレーニング 実際歌唱する曲の分析・聴く力を身に付ける。 洋楽を使用し英語でも同様に行う。				
【後期】37回目	RECを行う際の注意事項、必要機材の説明				
【後期】38回目	後期試験				
【後期】 39回目	総復習試験解説				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	音楽業界で実際に使われる言葉は沢山あります。授業で学んだうえで現場で活かせるようにしましょう。				
使用教科書	担当講師各自が考案したテキストを使用。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	グループヴォーカル	授業形態/必・選	実習 必修	
	ヴォーカルクリエイト I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験22年 2002年よりボイストレーナーの仕事始める '84年バンドデビュー、'94年ソロデビュー、'03年ユニットデビューと並行して、 現在もバンド、ユニット、ソロ、の3形態でアーティスト活動中				
授業概要					
自由に課題曲を選び、発声、テクニック、ステージングなど全ての面で、その曲を仕上げていく。個々の声、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。					
到達目標					
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を見付け、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げて「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライブやオーディションに繋げることを目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～2回目	歌いたい曲を選ばせて歌唱させ、声質、音域、現時点で身につけている技術の提示、好きなジャンルやアーティスト、好みの服装のチェックなどを行い、本人の良いところを提示し、それを活かした歌唱法、ジャンル選びを考えさせる				
【前期】 3～6回目	発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする				
【前期】 7～10回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にバンド、ヴィブラート、エッジに関して)				
【前期】 11～14回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主に顔の表情、手の動き、ポージングの設定と変化に関して)				
【前期】 15～19回目	フルコーラスの仕上げ(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)				
【前期】 20回目	前期試験				
【後期】 21～24回目	二曲目を選ばせ、発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して+支え、滑舌)				
【後期】 25～28回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にバンド、ヴィブラート、エッジ+プレスアビール、アクセントなど)				
【後期】 29～32回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導				
【後期】 33～37回目	フルコーラスの仕上げ(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)				
【後期】 38回目	後期試験				
【後期】 39～40回目	総復習、アーティスト性の絞り込み				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	個性を残したまま自分が歌いたい曲を「歌える曲」にすること。歌えていない曲をただ歌いたいから歌う、ではない形に仕上げることは、ヴォーカリストとして評価を上げる為には大切です。「自分にしか歌えない、自分だから歌える歌」をてに入れましょう。				
使用教科書	全コース共通の教科書を使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	分野別講座	授業形態 / 必・選	講義	必修
	分野別講座		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴25年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 20～23回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 24～28回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 29～32回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 33～38回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	レポート提出状況・内容によって評価
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習 I	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習 I		年次	1年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (前期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
3～4回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
5～8回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
9～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～20回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボード I (後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボード I (後期)		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
キーボードの初歩的な演奏方法と、音楽理論を習得する。					
到達目標					
コード演奏およびアルペジオでの演奏を習得したうえで、左右とも違う運指可能となる。					

授業計画・内容	
1～2回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
3～4回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
5～8回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
9～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～20回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。